

平成22年2月

千石真理 学位論文審査要旨

主査 吉岡伸一
副主査 大野耕策
同 中込和幸

主論文

Does Daily Naikan Therapy maintain the efficacy of Intensive Naikan Therapy against depression?

(日常内観療法は集中内観療法のうつ病に対する効果の維持に有用か)

(著者：千石真理、村田博照、川原隆信、今村かおり、中込和幸)

平成22年 Psychiatry and Clinical Neurosciences 64巻 44頁～51頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、集中内観療法後に日常内観療法を施行したグループとしなかったグループの比較を行い、うつ病の維持療法として、日常内観療法の有効性を検討したものである。その結果、日常内観療法は、集中内観施行後3ヶ月間において、うつ病の不安、心身状態に対する集中内観の効果維持に有用であり、日常内観を施行しなかった場合は、集中内観施行前の状態まで増悪する可能性が示唆された。再発率が高いと報告されているうつ病の維持療法として、これまでいくつかの西洋式心理療法の有効性が報告されてきたが、本論文は、本邦で開発された内観療法のうつ病の維持療法としての有効性を示唆するものであり、精神医学の分野で、明らかに学術水準を高めたものと認める。